

## 会議結果報告書

1 会議の名称

令和7年度第1回光市男女共同参画推進ネットワーク会議

2 開催日時

令和7年9月30日（火） 13時30分～14時30分

3 開催場所

光市役所 3階 大会議室1・2号室

4 出席人数

委員11人（4人欠席）、事務局4人

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴者

なし

7 会議の議事録

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議題

ア 光市男女共同参画推進ネットワークの役割について（事務局説明）

【質疑・意見等（要旨）】

特になし

イ 第5次光市男女共同参画基本計画の策定方針について（事務局説明）

【質疑・意見等（要旨）】

特になし

ウ 男女共同参画に関する市民アンケートについて（事務局説明）

【質疑・意見等（要旨）】

（委員）

アンケートは紙ベースだけか。インターネットを介してのアンケートはやる予定か。

（事務局）

今回、紙ベースということを考えている。

(委員)

わかりました。若者はやはりネットの方がいいと思う。来年度からまた検討してもらいたい。

(事務局)

次回以降、検討します。

(委員)

アンケートの8ページの間19で、「あなたは令和4年に制定された法律を知っていますか」と書いてあるが、先程の策定方針のところの1ページに、「令和6年には困難な問題を抱える女性への支援に関する法律が施行され～」とあり、よくわからなかった。令和4年に制定ということで良かったか。

(事務局)

法律の制定自体は令和4年だが、その施行は6年からになっている。

(委員)

わかりました。

(委員)

自分は三交代やってきたから、1ページ開いて男性の常勤といたら、我々はどうなるのか。常勤と書いてあるから、これ普通の勤務よね。三交代の人がもし当たった場合は、ここは無回答に近くなるのではないか。男は仕事、家庭を守るのは女性と、私は45年間やってきたから、その辺はどうかと思って。

(事務局)

今回は無作為抽出ということで、どのような業務形態か、働き方の形までは考慮していない。また、やはり男は仕事で、女は家庭なんだということでやってこられた方には、そのご意見もいただきたいと思っているので、考えを変えていこうというのではなくて、今まさに思っている答えが欲しいということで無作為抽出としている。

(委員)

おそらく前回のアンケートの時に、アンケート結果の話が出たと思うが、前回のアンケートを行った時の最後の11番の設問、「ご意見、ご要望についておたずねします」というところで、次のアンケートに生かせるような内容であったりとか、何かそれが少しいろいろな制度の向きを変えたような意見というようなものがあったかどうかを伺いたい。

(事務局)

前回のこの「ご意見、ご要望」というところだが、特出した意見というのは今こちらには持ち合わせていない。確かに、おっしゃる通り、意見を基にしてアンケートするべきところではあったが、過去からの同じ議題についての認識の違いとか、あるいは、時代の流れといったものを把握していこうということもあり、内容的に大きく変わっているところはない。アンケートの作成の都合上、何か盛り込むという形は少し難しいと思っている。ただ、私の方でも前回のご意見、ご要望というところまでは

しっかりと勉強していなかった。きちっとこれから読み直して、考え直したいと思う。  
ありがとうございました。

(委員)

世代によって、男女の差別的なものや考え方というのはすごく差があるというのが、いろいろこれまでにワークショップとかありますよね、今までに感じたことだったので、過去というか、振り返りながら今現在に向けてどういうふうにしていくかが必要と思い意見させていただいた。よろしくお願いします。

## エ 意見交換

### 【質疑・意見等（要旨）】

(議長)

男女共同参画は答えが無いので、自由に発言していただきたいと思う。以前、市長から堅苦しい会議にならないようにと言われていたので、あとは、お一人ずつ、男女共同参画と聞いたらどういうイメージがあるのかを一言ずつ、よろしいでしょうか。

(委員)

男女共同参画ということで、弊社は、会社自体の男女比率が50－50という形で業務を行っている。そこで、男女どうなのっていう部分で、比較するものは弊社にはあまりありません。嫌いなものは嫌い、好きなものは好き、言いたいことは言う、というようなスタンスの方が多い。

ただ、先程、世代間というか、年配の方に関しては亭主関白で女性の中へという部分が主流。それから中間層になってくると、共働きが増えてくると、同じ、同等の意見。それから若者は、それぞれがバラバラのような意見が大半ではないかと思っている。就職をする上で、弊社に関しては、あまり男性女性、関係なしに雇用はするが、男性から女性を見る視線という部分に関しては、なんていうか、そういう変な目で見ることはいらないように思っている。ただ、他社に関しては、やっぱりいろいろなものがありますし、男女が増えれば、恋愛も多少なり出てくるかなと。せっかく雇用したのに、結婚して辞めたとか、男女それぞれ辞めたりとか、いろんなパターンがあるが、この言葉をすれば、ちょっと下がったような感じ、さっと映えるような感覚では、まだ、ないかと思う。男女共同参画ということばが、まだまだ浸透されてないのが実情じゃないかと、職場に関してはですね。

ただ、一般的にはそういう言葉がちらほら出ているので、アンケートの後半の部分なんかは特に、男性が不利な感じのアンケートに感じるっていうのが年配者の意見だと思う。若い方に関しては、それが当たり前の生活基準になっているので、私たち、学校で道徳を習っているけれど、今の若者はどうなのかなという部分、この部分の教育自体が変わっているんで、その部分で世代間（格差）があるのではないかと思っているところである。

(委員)

うちの園は、割とお父さんがお迎え来てくださることが多いけれども、まだ、こど

もさんに熱があったりとか、ちょっと何かあったときに連絡するのはお母さんの方という、やっぱりちょっとそういうところは見られるなと思ったり、個人懇談だったり、参観日とかあって、お父さんも割と来てくださるけれども、そういうところで、いっぱい子どもたちの様子をお伝えしたりして、お父さんにもしっかり子育てに協力してもらったりっていうのを今、私たちも考えていきたいと思っている。

(委員)

1つ質問だが、先程1,500人無作為抽出というところで質問があったけれども、これは男女共同参画なので、男女の比率っていうのを、ここではなかなか難しいのかと思いながら、かなり偏ると正確なデータも出ないのかと思うけれど、そのあたりは。

(事務局)

前日も、今回もそうだが、人口比に分けて抽出をする。ですから比率は同じにした。さらに、10歳階級ごとに年齢を分けて、その年齢層にあわせて何パーセントというような抽出をしたいと思っているので、いわゆる光市の人口構造に合わせたようなアンケートの取り方をしていきたいと考えている。

(委員)

わかりました。ありがとうございます。また、年齢層によって、その回答の内容、違いに興味があるので、そうした集計の仕方があるとありがたいと思う。よろしくお願いします。

最近、特に思うのが、教員も育児休業の男性の取得率というのが大分上がってきている。私の学校でもそうだが、近隣の学校でも、若い男性職員が育児休業を取ります、と申請書が出て、いいことだと正直思っているが、そこをバックアップしていく体制が難しいと思っている。心情的に取りにくいという状況があることは危惧している。ご存じのとおり、全国的に教員が人手不足ということがあり、一旦休職すると、そこに代わりの教員がなかなか見つからないというところがある。それで遠慮して育休に踏み切れない男性がいるとすれば、それは申し訳ないことであり、解消していければと思っている。

それから、先程、先生がおっしゃられたけれども、随分、参観日の様子が変わってきて、子どもたちもうれしいだろうと思うが、お父さんも一緒に来られることが非常に増えてきた。入学式、卒業式もかなりの人数でいらっしゃっていただけるし、一時、コロナの間は家族1人とか人数制限していて大変悲しい思いをさせてしまったと思うが、今はコロナも明けて、ご両親で参加されることが非常に多い。先週、福祉教育参観日ということで、人権に関する授業であるとか、福祉体験であったり、敬老ふれあいのつどいに参加するというような形で土曜日に開催したが、それはそれは多くの方が来られた。うちは今、花がいっぱい咲いていてとても綺麗なので、休み時間に、どうぞ親子で花を見ながらスケッチ大会をしましょうと、スケッチコンクール大会みたいなことをしたが、お父さん方も筆を取って、子どもと一緒に座って描かれている姿を見て、随分ほほえましいと思ったし、それをお母さんが横から見ながら、うれしそうに見ておられる光景があって、そういうところでの意識改革が随分進んでき

ていると思っている。

それから、子どもたちに対しては、学校の方ではかなり意識をして人権の教育であったり、また男女の協力ということで行ってきているので、ご存じのとおり、随分昔から男女で出席番号は混合という形で進めてきていて、そういったところからも、子どもたちの意識も、教員の意識も、随分今は変わってきていると思っている。男女ってところを意識するよりも、人としてというところを学校としてはできるだけ意識するようにしているので、それぞれの子どもがそれぞれの子どもを支えていく、みんなでみんなを、というふうな形で支えあっていこうねという、学校は社会の縮図なので、小さな社会だが、そのあたりどういう風に自分を表現していくか、その表現する友だちを支えていけるかという視点は、きっと社会に出た時に役に立っていくだろうという思いで取り組んでいるところである。

(委員)

私も3月まで幼稚園保育園に勤めていたので、私40何年勤めたけれども、先生たちが言われたように、すごく変化が目まぐるしいというか。でも、これも教育の賜物じゃないかなと思う。だから、教育ということで、小さい時からこういうことに取り組む大切さはすごく感じている。

(アンケートの)最初に、あなたの性別は、男性、女性、3番があることは、すごく良いことだと思うが、3を付けた方はいらっしゃらなかったと聞き、パーセント的に言えば、本当はいらっしゃるんじゃないかという思いもある。実際そういう方もいらっしゃるという話も聞いたことがあるので、たまたま1,500人の中にいなかったということもあるかもしれないが、迷ったときに、やっぱり自分は、と男性か女性かを選んでしまう社会であるという、光市はそういう社会であるという証拠ではないかと思うので、3番に○が付いた時に、ああ、少しまた、一歩進んだと思えるのではないかと私自身思っている。今後は楽しみです。

(委員)

ハローワークでいろいろ仕事を紹介したりすることがあるが、以前に比べて、私の感覚的なものだが、随分、女性の方が今までこういったお仕事に就いていなかったのに就いてらっしゃるとか、そういった場面はあると思う。やはり女性の方の職場への進出というか、前はそういう仕事に就いていなかったけれど、今はそういう場面も、例えば交代制の現場であったりとか、そういったものも少なからずあると感じている。

それから、この男女共同参画で、今度第5次を作るということなので、第4次、今まで20年くらい経っているだろうが、どの程度この間に改善の方向になっているのか、そういったことも知りたいと個人的には思った。

あと、アンケートで、新しい法律を知っていますか、どうですか、という項目があるが、こういったことに携わっている方は多少なりとも知っているかもしれないが、おそらく一般市民の方は、法律自体が制定されたこと自体もあまりよくご存じではないと思うので、おそらく市民アンケートになるとかなり認知度は低くなると思っ

た。

(委員)

1 番最初に委員の方がおっしゃった男女平等だが、終わりの方は少し女性の方が偏っているのではないか、私も正にそう思った。なぜかと言うと、この中に出てくる地域社会という部分、学校ですと教育とか、職場ですとその職場への訴えかけということで可能だが、地域の中でそのあたりをどういうふうにしたらいいのかというのが、この中では私はわからなかった。

なぜ、そんなことを申すかと言うと、退職されて60代70代の方が、地域社会の中で、都市部じゃない部分、いろいろな地区では中心に活動されている。その中では本当にまだまだ何世代も前の価値観で動いている。ただ表面的には、男女平等だ、男性も女性もそのあたり平等にやっていこうといいながらも、力仕事は男性、そうじゃないところは女性と、きっかり分かれている。そこで、男性側から、なんで俺たちばかりがこんな仕事をしなきゃいけないのかという声が出てくるが、それは昔からの通例で、女性はそういうことをしない。男性はそれをするような形になっている。本来は、そういうことも含めて、両方が協力してやるってということじゃないかと思う、力仕事を女性にさせるということではなくて。だからそのあたり、地域社会をどういうふうにして、若い世代はそれでいいですが、年を取った60代70代、もっと言えば80代の方を含めて啓発していくのかは、聞いてみたいところではある。

(委員)

さっきのアンケートではないけれど、20年前は休みは結婚か葬式しかなかった。育児なんかとんでもないこと、PTA行くななんてなかった。あれからスマホができて20年、ぼちぼち変わった。喧嘩が少なくなった。

その反面、私が20年前に100人の女性の中に飛び込んでから、男女共同参画やって、今やっと男性が4人かな、まだまだ男性が入ってくるのは少ないけれど、ここはかなりおられますけれど、そういう世界に反省のつもりで入ったが、まあまあ仲良くやっているからいいじゃないかと思う。アンケートもだんだん変わってくると思う。社会はだんだん変わってきているから。

(委員)

私もアンケートをこの前、一応書いてみた。そうしたら随分、年で、実際こういう環境の中にいないので、よくわからないところがたくさんあったけれども、こどもとか孫とか見ていたら、こんなものかもしれないと思いながらアンケートに答えてみた。アンケートに書くのは表面的なものと、実際っていうのは、さっき言われたように、こっちじゃわかったようなことと言われるけれど、行動としたら、女が男が、というようなどころがあると思う。

私は若い時のように力はないので、若い人に力仕事とかお願いしたりするけれど、それでも、おばちゃんたちの茶話会とかに入ったら、私ちょっと行動的で、DIYとか、車とか長距離運転が好きでいろいろするけれども、おばちゃん達の中で、私のように行動的でいろいろやっている「男だね」って言われる。なんでそうしたら男に

なるんだろうと思う。そういうおばちゃん達というか、おばあさんですね、そういう人たちがまだまだ多いということで、男女の差別をする。金槌持つのはお父さんとか、そういう認識がこの田舎の方には多いんじゃないかと思う。テレビとかでは、DIYとか、女性がドリル持ったりのこぎり持ったり、色々なことをやっているから、だんだんそういうふうな、女性もそういう分野にも出てきているし、トラックの長距離運転でもドライバーに女性がとても多くいて、頑張っていると私はとても頼もしいと思ったけれど、本当に年配の人になると、女だてらにとか、そういう言葉がすぐに出てくるのがすごく悲しくなって、この人は何を見ているんだろうと思うところが多々あった。

このアンケートを見て、1,500人の中に、年齢がどういうふうになっているのかわからないけれど、年齢層にも色々と分けてしないと、この前頂いたアンケートに書き込んだけれど、わからないところとか考えられないところとか結構あったので、そのところを考慮したらいいのではないかと思った。

(議長)

皆さん、ありがとうございました。たくさんいろんな意見を出していただきまして、これを行政にも伝えて、どうにか男女共同参画が上手くいくように、光市が、まちが幸せ、光市に生まれて良かったなという感じで男女格差がなく生活できたらいいと私も思っているので、皆さんが今日帰られましたら、職場、家庭でも、ちょっと気になることがあればお話しされて、この委員の方々が、男女共同参画をいろいろ広げていただけたらと思っている。

#### (4) その他

(事務局)

市民アンケートは10月に郵送予定、その結果分析を年内12月頃までに完了させる予定としている。

その後、来年2月もしくは3月中に、今年度2回目のネットワーク会議を開催し、アンケート結果等の報告をしたい。

(事務局)

皆さん、本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。まだ、時間があるので、私の方からお聞きしたい。

先程、男性教員の育児休業の件が出たと思うが、大体、男性でどのくらいの期間取得されるか。

(委員)

私の学校では1か月だったけれど、近隣の学校では半年、職員の旦那さんが半年、年度末まで、みたいな形である。

(事務局)

ありがとうございます。市役所でも取得する職員もいるが、やはり女性に比べたらかなり短いという状況は聞いている。長くても半年とか、1年とか取る人は聞いたこ

とがないくらい。こういうのが気軽に取れるように、バックアップ体制をしっかりとできるようにすると思う。

それと、もう一点。先程、求職者の方の立場からだ、いろんな女性がいろんな職に就いて社会進出があるというような話だったが、求人側の方からしたらどんな感じか。女性の求人。

(委員)

事業主も、昔は、結構男性女性とあったけれども、今はそこまではというか、やわらいでいるというか、緩和されている。事業主の方も、特に、結構昔は抵抗感があったような気がするが、やはり人手不足とかいうこともあり、女性採用についてはご理解いただいているのではないかと思います。

(事務局)

男じゃないと駄目とか、女じゃないと駄目と縛るのは難しいか。

(委員)

もちろん、法律上なかなか難しい。難しいけれども、ただやはり、そういった場合は、事業主に求人票でも詳しく内容を書いていただき、求職者に判断していただく。重たいもの何キロぐらいのものを持ちますよとか、そのようなことを書いていただいて、仕事を探しておられる方に判断していただくということになる。

(事務局)

どうもありがとうございました。

なかなかですね、時代が進んで行けば変わるというのではなく、先程委員も言われたように、教育というのが1つの大きなきっかけとなって世の中が変わっていくのではないかと私も思っている。

昨今の世界情勢、少子高齢化、人口減少、それから、いろいろな病気が流行ったり、経済情勢も不透明であるという中で、政府、我々行政も色々な施策を考えるが、決定的にこれをやれば大丈夫というのがなかなか見つからない状況である。

そんな中、この男女共同参画、計画を作って推進していくことは、性別にとらわれないで一人ひとりの能力や個性、可能性を最大限に引き出す、社会環境整備というか、そういったことになるので、市だけではなくて、地域を元気にしていく、大きな欠かせないテーマではないかと思っている。光市だけでは、これを解決していくのはなかなか困難かもしれないが、皆様方のいろいろな立場からのご意見を今後も引き続きいただきながら、計画の策定にさらに入っていけたらと思うので、よろしくお願いします。今日はどうもありがとうございました。

## (5) 閉会